

ゲーム中のパス分析からみるフットサル競技の特徴

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4119028
氏名：武井 元則

【目的】

本研究では世界のトップレベルのフットサルチームと国内 F リーグのチームを比較することでゲームを構成している主な技術の 1 つであるパスの特徴について解明することを目的とした。

【方法】

本研究は、国内 F リーグディビジョン I に所属するチームの公式戦 7 試合と、フットサル世界ランキング上位の公式戦 7 試合、合計 14 試合を分析対象とした。分析方法は、フットサルピッチの縮図を利用し、熟練者 12 名による試合中のボールの移動軌跡を全て描写する記述分析法を用いた。分析項目は、以下の通りである。

- ① パス 1 本あたりの距離（1 試合に出現するパスの距離の合計／総パス回数）
- ② パス 1 本を出すのに要したボールタッチ数（1 試合あたりのパスに要したボールタッチ数の合計／総パス回数）
- ③ 1 試合あたりのパスに要したボールタッチ数の合計
- ④ 前半と後半のパスの本数の差
- ⑤ ダイレクト（1 回のタッチ）で出したパスの本数
- ⑥ パスの距離別の本数

【結果】

世界のトップレベルのチームと国内 F リーグのチームとの間には、総パス回数、1 試合に出現するパスの距離の合計、パス 1 本あたりの距離、前半と後半のパスの本数の差、ダイレクトパスの本数、パス距離 1m 単位での分布には、差が見られなかった。さらに、「パス 1 本を出すのに要したボールタッチ数」および「1 試合あたりのパスに要したボールタッチ数の合計」に関しては、世界のトップレベルのチームの方が有意に低値であることが確認された。

【結論】

世界のトップレベルのチームの方が国内 F リーグのチームより、少ないタッチ数でパスを繰り出している可能性が示唆された。